

第25回 幸田町中学生海外派遣 報告



第25回幸田町中学生海外派遣団（生徒13人、引率4人）が8月18日から25日までの8日間の日程で、マレーシアとシンガポールを訪問しました。マレーシアのペナン島にあるヘン・イー校での体験入学やスクールバディの家でのホームステイ、また世界文化遺産のジョージタウンの見学を行いました。シンガポールでは国立博物館などでシンガポールの歴史について学び、行政と歴史の中心地であるマリナ地区の見学もしました。

今回の特集では、異国で暮らす同世代の若者との交流を通して学んだこと、マレーシア・シンガポールに行ってみて、身をもって感じたことなどを報告します。

心を大切に



幸田中学校

清水 紀早さん

清水 紀早さん

今回の海外派遣では、たくさんの貴重な体験をすることができました。特に心に残っていることは、3泊4日のホームステイです。

ホストファミリーと会う前は楽しみな気持ちもありましたが、不安もありました。しかし、少しずつ話すうちに最初の不安はいつの間にか消え、自然と笑顔で話せるようになりました。英語が聞き取れず、会話が止まってしまいう事もありませんでしたが、その度に分かるように言い直してくれて、お互いに伝え合おうとすることで心が通い合っていく気がしました。



特に距離を縮められたのは2日目のホストマザーが買い物に行っている間です。スクールバディと車内で3人きりになり、最初は無言でしたが、家族のことや学校のことを話していくうちに距離が縮まってきました。また、相手の英語を理解することができ、会話が弾んでいった時はすごく嬉しかったです。しかし、嬉しさと同時に自分の語学力の低さも感じました。

最終日の夜、お土産で持っていた

おもちゃで遊んだ時は、すごく盛り上がり、喜んでくれていた姿を見て私も嬉しくなりました。

今回の海外派遣でたくさんの体験を通して、伝えようとする心、理解しようとする心があれば通じ合えるということ、それを改めて学びました。たくさんの方の友達を作ることができました。この貴重な経験ができたのも、多くの方のおかげです。感謝の思いを忘れず、語学力の向上を目指していきます。



第25回 幸田町中学生海外派遣団員一覧

<幸田中学校>

小林 央奈、清水 紀早、難波 佑衣
三浦 楓也、山本 陸、和田 絵理香

<南部中学校>

山本 友樹、大西 由季乃、家治川 凌平

<北部中学校>

原田 菜々、伊藤 瑤乃、渥美 里咲、村橋 達哉

<引率者>

丹羽 雅英、矢野 功一、村瀬 聖一、志賀 浩美
順序不同・敬称略

異国の学校で



南部中学校
山本 友樹くん

今回の海外派遣では昨年と異なり現地のヘン・イー校との交流が長く、たくさんの事を体験することができました。

マレーシアは日本とは学校の制度が違い、中学校がなく、小学校の次に5年間の高校があります。ヘン・イー校には13歳から17歳の生徒が通っていて日本との文化の違いを感じました。

僕は1年生と2年生に混ざって体験授業を受けました。1クラスが約40人ほどの学級で美術、社会、マレー語などを体験しました。美術の授業では切り絵を体験しました。切り絵の題材として日本の漫画のキャラクターを持ってきている生徒が数人いました。いろいろな形で日本の文化が入ってきている事を知り、とても驚きました。

また、ヘン・イー校の生徒は少なくともマレー語、英語、中国語の3か国語を話すことができ、授業によって言語を変えたり、生徒全員が3つの言語を使いこなしていたりする姿を見て言語能力の高さに驚きました。

その後の交流会では、お互いの出し物を披露しました。僕たち派遣生は合唱曲「未来へ」と「南中ソーラン」を発表しました。特にソーランは現地



必死に練習してきたので本当によかったと思います。ヘン・イー校はダンス合唱、楽器を使った演奏などマレーシアならではの出し物を見せてくれました。お互いの文化にふれあうことができて、それぞれの国の良さを分かり合うことができたと思います。

交流を通して言語力の違いに改めて驚きました。そのため自分たちも、もっと外国語の学習に力を入れて頑張りたいと思います。また、この海外派遣で得た貴重な経験を普段の生活、将来に生かしていきたいと思っています。



たとえ文化が違って



南部中学校
渥美 里咲さん

私がマレーシアとシンガポールで、最初に感じたことは、自然が多く、町全体がきれいだということ。見渡せば必ず緑があり、いたるところにゴミ箱が設置されていました。そのためゴミはほとんど落ちておらず、国民一人一人の意識がとても高いことが見てわかりました。しかし、マレーシアもシンガポールも多民族国家のため、それぞれ違う文化や考え方を持った人がいます。それでもきれいに維持できるのは、お互いを理解し、尊重し合おうとする「思い」があるからなのだと思います。

シンガポールには、「マリーナベイ

サンズ」をはじめ、たくさんの高層建築があり、その高さや数には大変びっくりしました。一方、ホームステイをした、マレーシアのペナン島には、一軒家や小さなスーパーなどが多く、高層建築はほとんど見られませんでした。近い国同士なのにも関わらず、こんなにも発展の違いがあることに驚かされました。

市内見学では、世界文化遺産に指定されているマレーシアのジョージタウン、シンガポールの国立博物館などへ行きましました。ジョージタウンでは、モスクや教会、中国系の建物がたくさんあり、多民族国家らしくそれぞれの文化を共有していることが分かります。国立博物館では、14世紀から現代までの国旗や音楽、電化製品、衣服など、時代と共に息づき、移り変わってきたシンガポールの文化を感じ取ることが出来ました。

私は、今回の海外派遣を通して、たとえ文化や考え方が違っても、お互いを理解し、尊重し合おうとする「思い」があれば一つになれるということが分かりました。それは、多民族国家間だけでなく、私たちの日常生活でも同じことが言えると思います。今回学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。



感動と刺激を味わった4日間



団長 南部中学校
丹羽 雅英校長

昨年度に続き、マレーシア・シンガポールへの2度目の派遣となった今回は、ホームステイ先が訪問校の生徒宅となったこともあり、同校生徒やホストファミリーと過ごした4日間は、たいへん実り多いものとなりました。

マレーシアのペナン島にあるヘン・イー校は、13歳から17歳までの5年制の公立学校で、全校生徒数約3600人、教員数約200人という大規模校です。人数が多いため午前、午後の2部制となっています。

生徒たちは、たいへん礼儀正しく勤勉で、「Local Roots Global Outlook」(地域に根ざし、世界を展望する)の理念の下で、文武両面に力を注いでいます。Preston(監督生)という組織も確立されていて、日常生活の中で見られた自治的な活動も印象的でした。多民族国家ならではの授業は、マレー語、英語、中国語の三方国語が駆使され、国際的な活躍をするクラブ活動もあります。

同アジアの中学生の生活や見方・考え方に触れ、言葉の壁を越えながら互いに心を通わせた感動や刺激は、かけがえないものとなりました。この研修が参加者の今後の糧となるとともに、見聞が広く周りにも伝えられることで、同校と幸田町の相互交流、発展につながることを願っています。貴重な経験をさせていただいたことに団員一同心より感謝いたします。

問合せ 学校教育課学校教育G(内線422)